

## 2008年度秋季大会の報告

2008年度秋季大会は、仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山）を会場として2008年11月19日（水）～21日（金）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は817名であった。

2日目午後には、仙台国際センター大会議室「橘」において山本・正野論文賞が三浦裕亮氏と三好建正氏に、堀内賞が大島慶一郎氏と橋口浩之氏に、奨励賞が小寺裕之氏にそれぞれ授与された。授賞式に続いて山本・正野論文賞及び堀内賞の受賞記念講演が行われた。記念講演に引き続き、大会シンポジウム「地域の詳細な気象と気候の再現を目指して—ダイナミックダウンスケール技術の高度利用—」が行われた。シンポジウムは無料で一般公開され、大会参加者以外に43名の一般聴講者の参加があった。

講演は特定のテーマによる7件のスペシャルセッションと一般口頭セッション及びポスターセッションで行われた。講演申込み件数は505件で、福岡で行われた2004年度秋季大会の511件に次いで多くの講演申込みがあった。その内訳はスペシャルセッションを含めた口頭発表が309件、ポスター発表が196件であった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる研究会が6件開かれた。

最後に、今大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた仙台管区气象台、東北大学大学院理学研究科、(財)日本気象協会東北支局をはじめとする東北支部の皆様深く感謝の意を表します。

2008年11月 講演企画委員会